

# 貝塚市遺跡群発掘調査概要 38

2016. 3. 31

貝塚市教育委員会

## は じ め に

貝塚市は、大阪府の南部、泉州地域に位置し、北西は大阪湾に面し、東南は和泉葛城山を有する山間部であり、北西から東南に長くのびる市域形状を呈しています。

今日、私たちの暮らしを取り巻く環境は、開発とともに発展してきました。急速な開発は、自然環境に多大な影響を与え、さらに地下に眠る埋蔵文化財も消滅の危機に瀕しています。

埋蔵文化財は、私たちの歴史や文化の成り立ちを理解する上で欠くことのできない貴重な情報を提供してくれます。この貴重な情報を記録保存することにより将来の文化の向上発展に活かしていく必要があります。

近年、文化財を活用する取り組みが盛んに行なわれています。埋蔵文化財においても情報や資料の活用を図り、普及啓発に努めていきたいと考えています。

本書は、平成 27 年度中に実施いたしました緊急発掘調査の結果報告です。住宅建築等に伴い、事前に実施した発掘調査であり、市域の歴史・文化を知るうえで欠かせない成果を得ることができました。

発掘調査ならびに本書の作成にあたり、多大なご指導・ご協力を賜りました関係各位に対し、深謝するとともに、今後とも本市埋蔵文化財保護行政に対する一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成 28 年 3 月 31 日

貝塚市教育委員会

教育長 西 敏 明

## 例　　言

1. 本書は貝塚市教育委員会が平成 27 年度に国庫補助金を受けて実施した、大阪府貝塚市域における埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告である。
2. 発掘調査は平成 27 年 6 月 1 日より実施し、平成 28 年 3 月 31 日に終了した。調査は三浦基が行なった。
3. 本書の執筆・編集は三浦基が行なった。
4. 出土遺物、調査記録は、貝塚市教育委員会において保管している。

## 凡　　例

1. 図中の方位は磁北を示す。
2. 本書の土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帳』1990 年度版を用いた。
3. 貝塚市遺跡分布図については、山間部の一部は掲載していない。

# 目 次

はじめに

例 言、凡 例

目 次（本文目次、挿図目次、図版目次、表目次）

第1章 平成27年発掘調査の概要 ..... 1

第2章 調査の成果 ..... 5

1. 海塚遺跡	2014 - 10 区	5
2. 沢城跡	2014 - 11 区	6
3. 森下代遺跡	2014 - 12 区	7
4. 千石堀城跡	2014 - 13 区	7
千石堀城跡	2014 - 14 区	8
千石堀城跡	2015 - 06 区	12
千石堀城跡	2015 - 10 区	15
5. 加治・神前・島中遺跡	2015 - 05 区	16
6. 脇浜遺跡	2015 - 08 区	16
7. 麻生中遺跡	2015 - 09 区	17
8. 貝塚寺内町遺跡	2015 - 11 区	18
9. 遺跡範囲外	2015 - 04 区	18
遺跡範囲外	2015 - 07 区	18
遺跡範囲外	2015 - 12 区	18

## 挿図目次

- 図 1 貝塚市遺跡分布図  
図 2 調査部位概図  
図 3 調査部位概図  
図 4 2014 - 10 区  
図 5 2014 - 11 区  
図 6 2014 - 12 区  
図 7 2014 - 13 区、2014-14 区  
図 8 2014 - 13 区  
図 9 2014 - 13 区  
図 10 2015 - 14 区  
図 11 2015 - 06 区、2015-10 区調査区配置図  
図 12 2015 - 06 区  
図 13 2015 - 06 区  
図 14 2015 - 06 区  
図 15 2015 - 10 区  
図 16 2015 - 05 区  
図 17 2015 - 08 区  
図 18 2015 - 09 区  
図 19 2015 - 11 区  
図 20 2015 - 04 区  
図 21 2015 - 07 区  
図 22 2015 - 12 区
- 図版 7  
千石堀城跡 (2015-06 区) 第 4 区  
千石堀城跡 (2015-10 区) 第 1 区
- 図版 8  
千石堀城跡 (2015-10 区) 第 2 区  
加治・神前・島中遺跡 (2015-05 区)
- 図版 9  
鷹浜遺跡 (2015-08 区)  
麻生中遺跡 (2015-09 区)
- 図版 10  
貝塚寺内町遺跡 (2015-11 区)  
遺跡範囲外 (2015-04 区)
- 図版 11  
遺跡範囲外 (2015-07 区)  
遺跡範囲外 (2015-12 区)

## 表目次

- 表 1. 平成 27 年国庫補助事業一覧  
(平成 27 年 1 月～12 月)

## 図版目次

- 図版 1  
海塚遺跡 (2014-10 区) 第 1 区  
海塚遺跡 (2014-10 区) 第 2 区
- 図版 2  
沢城跡 (2014-11 区)  
森下代遺跡 (2014-12 区)
- 図版 3  
千石堀城跡 (2014-13 区) 第 1 区  
千石堀城跡 (2014-13 区) 第 2 区
- 図版 4  
千石堀城跡 (2014-13 区) 第 3 区  
千石堀城跡 (2014-13 区) 第 4 区
- 図版 5  
千石堀城跡 (2014-14 区)  
千石堀城跡 (2015-06 区) 第 1 区
- 図版 6  
千石堀城跡 (2015-06 区) 第 2 区  
千石堀城跡 (2015-06 区) 第 3 区

# 第1章 平成27年発掘調査の概要

平成27年の埋蔵文化財発掘届出及び通知の総件数は208件、遺跡外試掘調査依頼は15件である。

届出・通知にかかる対応について、確認調査は15件、立会調査は32件、慎重工事は159件、府にて対応は1件、99条にかかる発掘調査は14件である。

届出・通知及び依頼の総件数は前年と比較して減少した。長引く不況等の社会情勢を反映しているものと考えられる。

分譲住宅の届出件数は26件、個人住宅の件数は55件であり、前年と比較してやや減少している。その要因としては、宅地造成の件数の減少、開発規模も縮小しており、分譲住宅の届出件数に反映されているものと考えられる。

個人住宅の届出件数は55件であり、前年と比較して減少している。個人住宅についての発掘調査はなかった。

住宅以外の開発は、宅地造成13件、共同住宅3件、店舗9件である。宅地造成、店舗は前年と比較して増加、共同住宅は横ばい傾向である。

また、個人住宅や共同住宅において地盤改良や柱状改良等の耐震工事を行なう事例が増加しており、埋蔵文化財の破壊が懸念される。

遺跡範囲外においての開発は15件であり、前年に比べ増加傾向である。その目的は宅地造成3件、共同住宅4軒、分譲住宅2件、個人住宅1件、店舗1件、その他4件である。

	遺跡名	調査番号	調査	開発地
(平成26年度)				
1海塚遺跡	2014-10	確認	脇浜19他	
2沢城跡	2014-11	確認	浦田144-1、144-5	
3森下代遺跡	2014-12	確認	森408-5	
4千石堀城跡	2014-13	確認	名越地内	
5千石堀城跡	2014-14	確認	名越地内	
(平成27年度)				
6遺跡範囲外	2015-04	試掘	名越601	
7加治・神前・畠中遺跡	2015-05	確認	加神1丁目137-1他4筆	
8千石堀城跡	2015-06	確認	名越地内	
9遺跡範囲外	2015-07	試掘	堤29-1、33-1	
10脇浜遺跡	2015-08	確認	脇浜3丁目568-1、568-2の各一部	
11麻生中遺跡	2015-09	確認	麻生中1003-3、-4、-5	
12千石堀城跡	2015-10	確認	名越地内	
13貝塚寺内町遺跡	2015-11	確認	北町304-3、331-1、-4、-5	
14遺跡範囲外	2015-12	試掘	沢470-20、489	

表1. 平成27年国庫補助事業一覧(平成27年1月～12月)



1. 沢新出遺跡
2. 沢海岸遺跡
3. 沢遺跡
5. 長樂寺跡
7. 連藏堂丸山古墳
8. 地藏堂廃寺
9. 下新出遺跡
10. 泰庵寺
15. 麻生中新池遺跡
16. 河池遺跡
17. 水間寺遺跡
18. 木積觀音寺跡
20. 堀遺跡
21. 橋本遺跡
22. 貝塚寺内町遺跡
23. 加治・神前・畠中遺跡
24. 明業寺跡
25. 沢共同墓地遺跡
26. 沢西出遺跡
27. 沢海岸北遺跡
28. 浜城跡
29. 新井・鳥羽遺跡
30. 新井ノ池遺跡
31. 半田遺跡
32. 麻生中遺跡
34. 瀧池遺跡
35. 積善寺城跡
36. 清児遺跡
37. 集原泊遺跡
38. 高井天神廃寺・高井城跡
39. 森城跡
40. 森B遺跡
41. 森ノ大池遺跡
42. 森A遺跡
43. 二ツ池遺跡
44. 千石堀城跡
45. 水間墓地
46. 三ヶ山城跡
47. 片山墓地
51. 窪田遺跡・窪田廃寺
53. 城城遺跡
54. 三ツ松遺跡
55. 檜ヶ谷城跡
56. 半田遺跡(清児地区)
57. 堤遺跡
58. 小瀬五所山遺跡
59. 石才遺跡
60. 王子遺跡
61. 土生遺跡
64. 海岸寺山遺跡
66. 脇浜遺跡
67. 今池遺跡
68. 三ヶ山西遺跡
69. 三ヶ山西南遺跡
70. 石才南遺跡
71. 名越遺跡
72. 地藏堂遺跡
73. 名越西遺跡
74. 木積遺跡
75. 新井・鳥羽北遺跡
78. 沢西遺跡
79. 王子西遺跡
80. 裾田遺跡
81. 三ヶ山才ニ谷遺跡
82. 福田遺跡
83. 森下代遺跡
84. 三ツ松北垣外遺跡
85. 薬師池西遺跡
86. 麻生中出口遺跡
87. 小瀬遺跡
88. 堀三宅遺跡
89. 津新開遺跡
90. 沢タナジリ遺跡
91. 堀新遺跡
92. 橋池遺跡
93. 麻生中下代遺跡
94. 堀秋毛遺跡
95. 半田北遺跡
96. 沢老ノ塚遺跡
97. 東遺跡
98. 馬場遺跡
100. 烏の池西遺跡
101. 白地谷遺跡
102. 津田北遺跡
103. 久保遺跡
108. 水間二ノ戸遺跡
109. 窪田ハマデ遺跡
110. 海塚遺跡
111. 脇浜川端遺跡
112. 羽織筋力遺跡
113. 橋木野岸ノ下遺跡
114. 麻生中薬師堂遺跡
115. 谷池遺跡
116. 小瀬大遺跡
117. 石才通口遺跡
118. 海塚宝伝遺跡
119. 小瀬与九郎遺跡
120. 王子大イケダイ遺跡
121. 王子ヨウサ遺跡
122. 半田ヨシマクラ遺跡
123. 堀西浦遺跡
124. 木積下代遺跡
125. 横本原宮遺跡

図1 貝塚市遺跡分布図(部分・貝塚市域のみ)



図2 調査地位置図

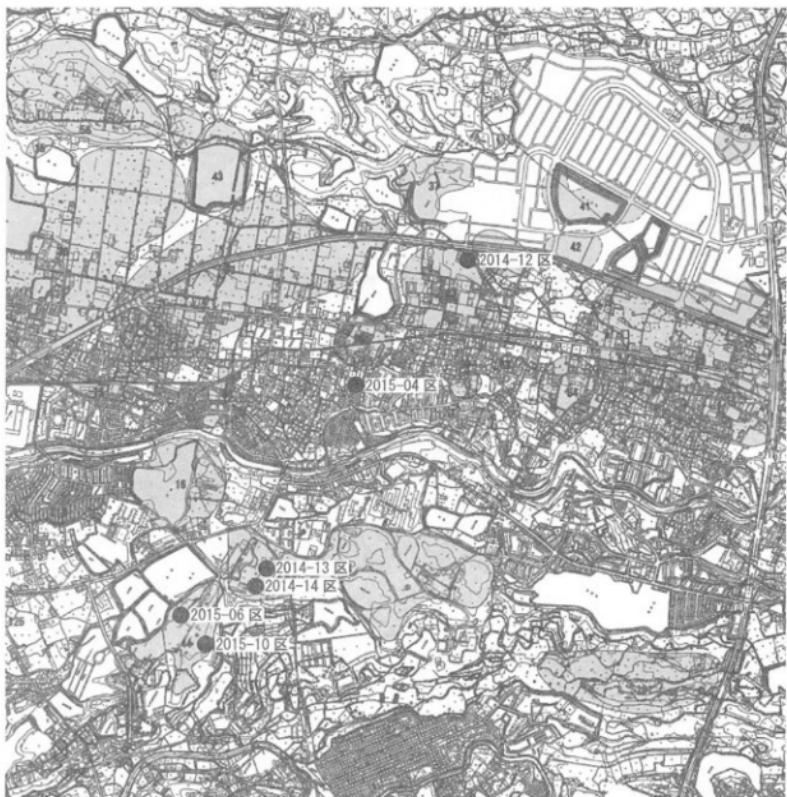


図3 調査地位置図

## 第2章 調査の成果

### 1. 海塚遺跡

本遺跡は、近木川の右岸の中位段丘上、標高約15mに位置する。周知の遺跡として、中世の集落跡と推定される。本市による平成9(1997)年度の調査では、奈良時代の土坑、溝を、中世の溝、縄溝等を検出している。平成10(1998)年度の調査では、中世の溝4条等を検出している。

#### 2014-10 区の調査（海塚遺跡）

調査期間 平成27年1月27日

調査面積 7 m<sup>2</sup>

本確認調査は、脇浜19他において実施した。調査は、開発道路部分に2ヵ所の調査区（第1区、第2区、合計7m<sup>2</sup>）を設定して実施した。以下、概要を示す。

#### 第1区

本調査区の地層堆積状況は、上層より盛土（1、層厚0.3～0.4m）、耕作土（2、層厚0.14m）、にぶい黄褐色土（3、層厚0.2～0.3m）、黄褐色土（4、層厚0.05m）、灰黄褐色土（5、層厚0.1m）でその下は、明黄褐色粘土（6）の地山である。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

#### 第2区

本調査区の地層堆積状況は、上層より盛土（7、層厚0.5m）、盛土（8、層厚0.35m）、灰黄褐色土（5、層厚0.1m）でその下は、灰黄褐色砂混じり土（9）の地山である。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

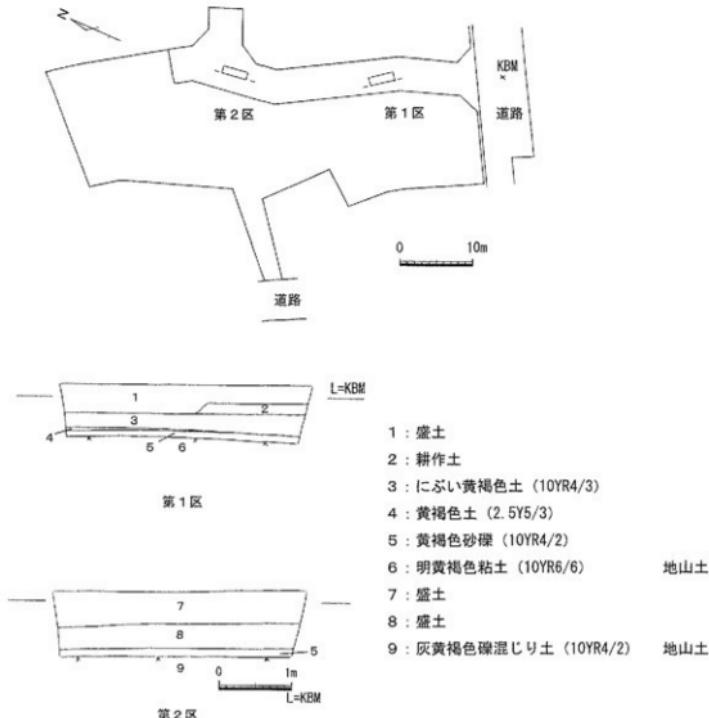


図4 2014-10区

## 2. 沢城跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高8~11mに位置する。中世・戦国時代の集落跡・城跡と推定されている。沢城は紀州根来勢により畠中城・積善寺城とともに近木川流域に築かれた城である。天正13(1585)年の紀州攻めの際に、宝蔵院、田中加助ら紀州の一一向宗と雜賀衆約6000人が籠城したとされる。

沢城跡では中世の掘立柱建物跡、耕地跡、溝等を検出している。平成13(2001)年度の調査では、溝を検出し、溝内より大量の瓦が出土している。沢城に開通する溝と考えられる。

### 2014-11 区の調査（沢城跡）

調査期間 平成27年2月4日

調査面積 4.2 m<sup>2</sup>

本確認調査は、浦田144-1、144-5において実施した。本調査区は、開発道路部分に調査区(8 m<sup>2</sup>)を設定して実施した。地層堆積状況は、上層より耕作土(1、層厚0.22m)、黄褐色砂混じり土(2、層厚0.08m)でその下は、明黄色色粘土(3)の地山である。

地層堆積状況から判断して、地層は削り取られており遺構は検出できなかった。遺物は出土していない。

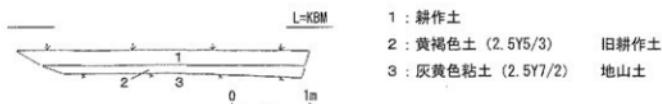
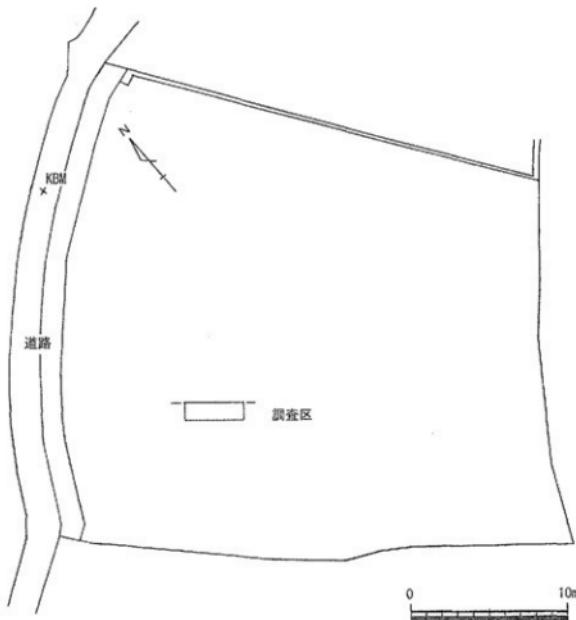


図5 2014-11 区

### 3. 森下代遺跡

本遺跡は、近木川右岸の段丘上、標高 49 ~ 50m に位置し、周知の遺跡として中世の集落跡と推定されている。平成 13 年度の調査では、弥生時代中期の構、中世～近世にかけての耕作地跡を検出した。また中世の遺物包含層より縄文後期の土器片やサヌカイト製石器が出土しており、本遺跡において縄文時代の生活域が存在していた可能性がある。

#### 2014-12 区の調査（森下代遺跡）

調査期間 平成 27 年 2 月 6 日

調査面積 8 m<sup>2</sup>

本確認調査は、森 408-5 において実施した。本調査区は、開発道路部分に調査区 (8 m<sup>2</sup>) を設定して実施した。地層堆積状況は、上層より耕作土 (1、層厚 0.22 m)、黄褐色砂混じり土 (2、層厚 0.08 m) でその下は、明黄褐色粘土 (3) の地山である。

地層堆積状況から判断して、地層は削り取られており遺構は検出できなかった。遺物は出土していない。

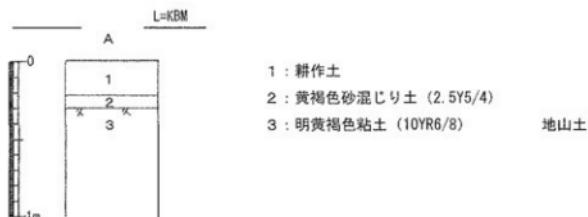
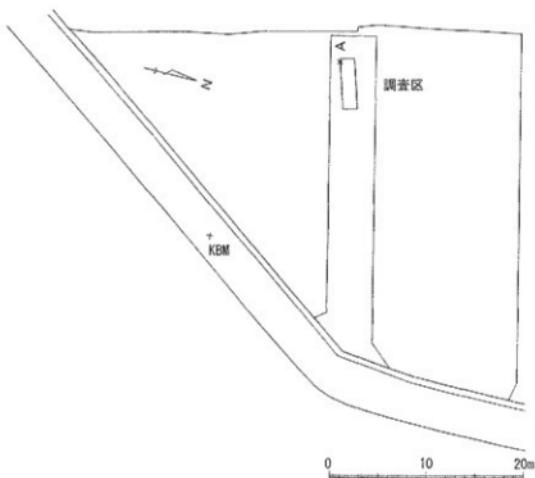


図 6 2014-12 区

#### 4. 千石堀城跡

##### 2014-13 区の調査（千石堀城跡）

調査期間 平成 27 年 2 月 23 日～2 月 27 日

調査面積 43.4 m<sup>2</sup>

本確認調査は、名越他地内にて実施した。調査は、平成 27 年 2 月 23 日～27 日にかけて第 1 区～第 4 区（合計 43.4 m<sup>2</sup>）を設定して実施した。千石堀城跡の東側の堀は二重に造られており今回は堀の状況を確認するために設定した調査区である。以下、概要を示す。

##### 第 1 区

本調査区は東側の内側の堀に設定した。検出した堀の幅約 3.5 m、深さ 1.8 m である。段上部と堀最深部との高低差は約 4 m を測る。地層堆積状況は、堀以外の部分は、腐植土層（1、層厚 0.1 m）の下は明赤褐色土（4）の地山である。堀埋土は 2 層に分けることができるが、地層の状況から判断して、自然埋没したものとは考えられない。短い期間に一度に埋め戻したと考えられる。遺物は堀埋土より石造物の方形蓮華座が出土している。

##### 第 2 区

本調査区は城東側の外側の堀に設定した。検出した堀の幅約 5.6 m、深さ 1.8 m である。段上部と堀最深部との高低差は 5 m 以上である。地層堆積状況は、堀以外の部分は、腐植土層（1、層厚 0.1 m）の下は明黄褐色土（4）の地山である。堀埋土は 2 層に分けることができるが、地層の状況から判断して、自然埋没したものとは考えられない。無い期間に一度に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

##### 第 3 区

本調査区は城東側の外側の堀に設定した。検出した堀の幅約 6.7 m、深さ 1.6 m である。段上部と堀最深部との高低差は約 5 m 以上である。地層堆積状況は、堀以外の部分は、腐植土層（1、層厚 0.1 m）、斜面部分に明黄褐色土（2、層厚 0.6 m）の下は浅黄色粘土（6）の地山である。堀埋土は 3 層に分けることができるが、地層の状況から判断して、自然埋没したものとは考えられない。短い期間に一度に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

##### 第 4 区

本調査区は城東側の外側の堀に設定した。本堀の東側には舌状に尾根のがりことから本城にかかる施設等の可能性が考えられた。そのため、調査区は堀から東側の尾根の一部にかけて設定して調査を実施している。堀東側端部より東に 8.5 m まで確認を行った。地層堆積状況は腐植土（1、層厚 0.1 m）、明黄褐色土（2、層厚 0.4 m）で明褐色土（3）の地山である。2 層は遺物が出土しておらず、構造も確認できることから人為的なものか、自然堆積かの判断がつかない。

今回の調査では、東側の二重の堀の状況を確認することができた。堀は、短期間に一度に埋め戻した状況が明らかとなった。堀の埋土から出土した石造物、瓦から、もともとこの場所に寺院があり、地理的状況などから城として造成されたと考えられる。

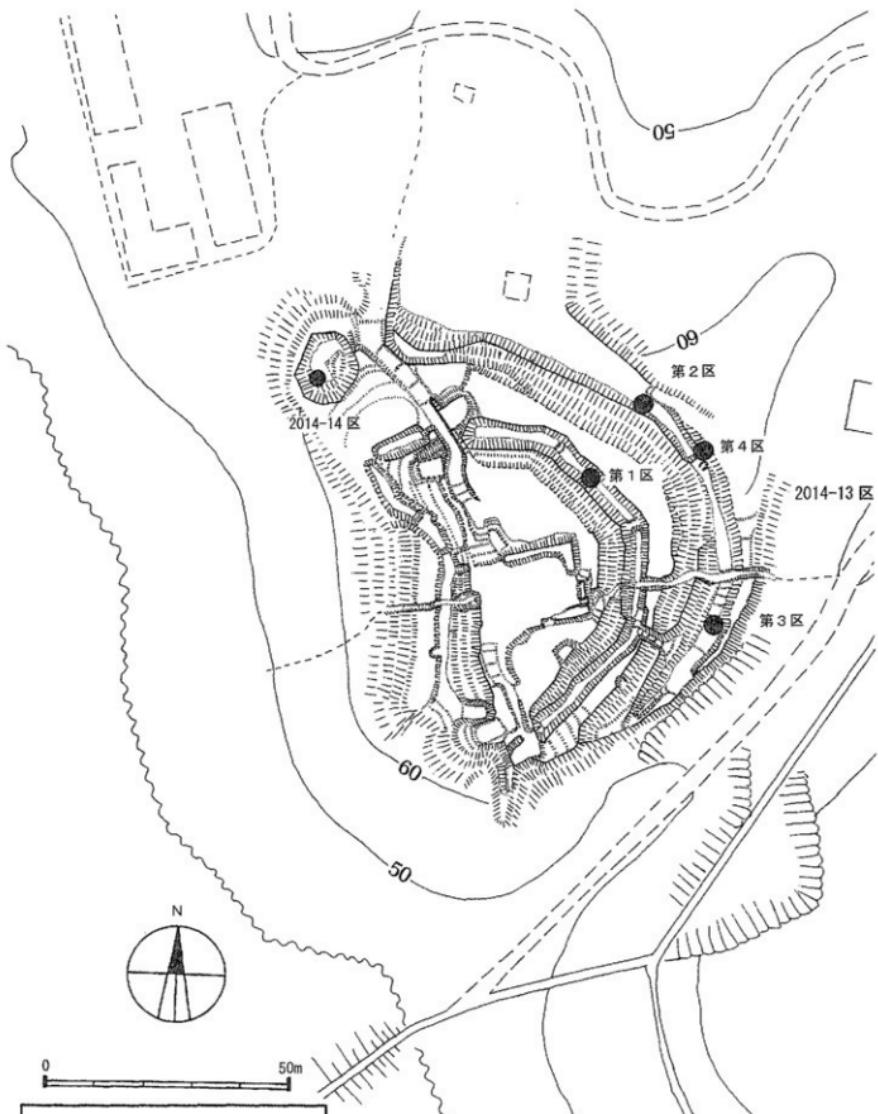
##### 2014-14 区の調査（千石堀城跡）

調査期間 平成 27 年 3 月 5 日～3 月 6 日

調査面積 14.9 m<sup>2</sup>

本確認調査は、石才 643 他 639 箕において実施した。調査は、千石堀城跡の状況確認のために調査区（14.9 m<sup>2</sup>）を設定して、調査を実施した。

調査地は、現状が泡状の疊みを呈しており、平成 25 年度に実施した調査（2013-09 千石堀城跡第 7 区）により、堀の存在が確認されている。堀は南北方向から東側に曲折すると考えられることから、調査区を西側斜面から東西方向に設定した。調査の結果、幅 3.5 m、深さ約 2 m の南北方向の堀を確認した。堀の埋土は 4 層に分けることができる。地層堆積状況から判断して埋戻しは短期間に行われたと考えられる。また、堀西側では、土器の可能性のある地層（2）を確認している。



和泉千石堀城（貝塚市橋本）  
中西義昌 調査作図 2013.2  
(調査位置を加筆)

図7 2014-13区・2014-14区

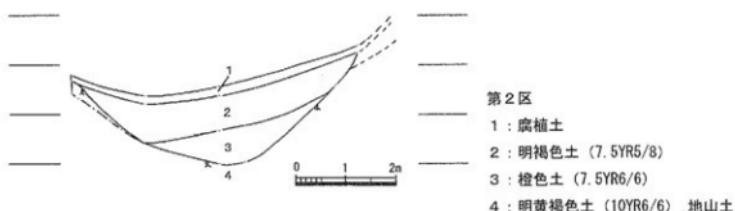
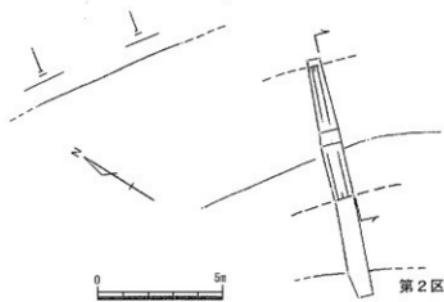
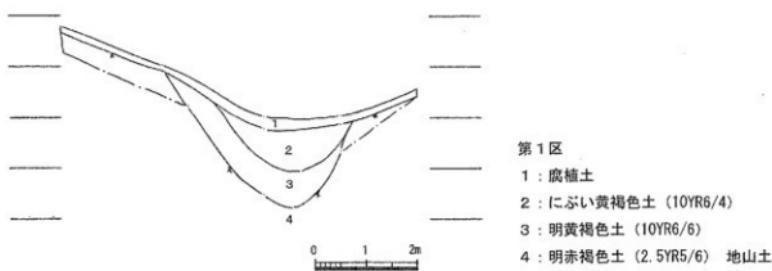
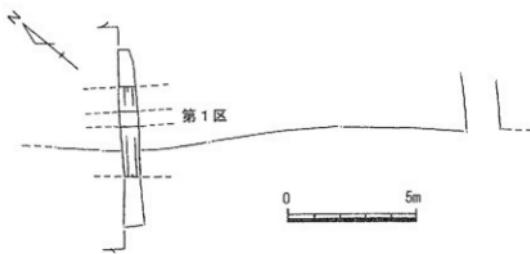
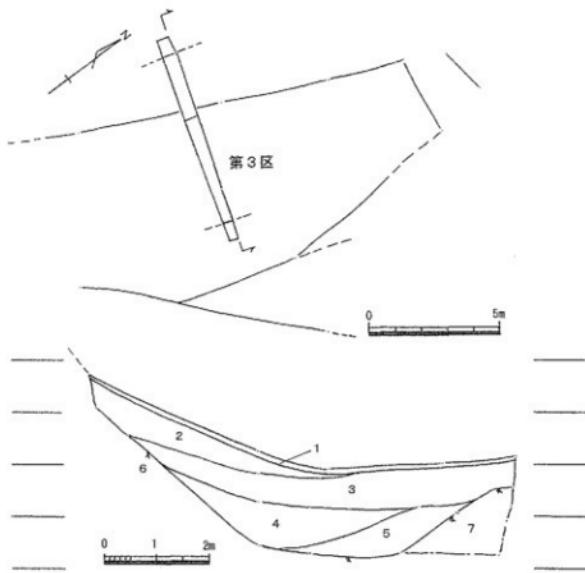


図8 2014-13区



第3区	3 : 明黄褐色土 (10YR7/6)	6 : 浅黄色粘土 (2.5Y7/3)	地山土
1 : 腐植土	4 : 明褐色土 (7.5YR5/6)	7 : 灰黄褐色土 (10YR6/2)	地山土
2 : 明黄褐色土 (10YR6/6)	5 : 浅黄色土 (2.5Y7/3)		

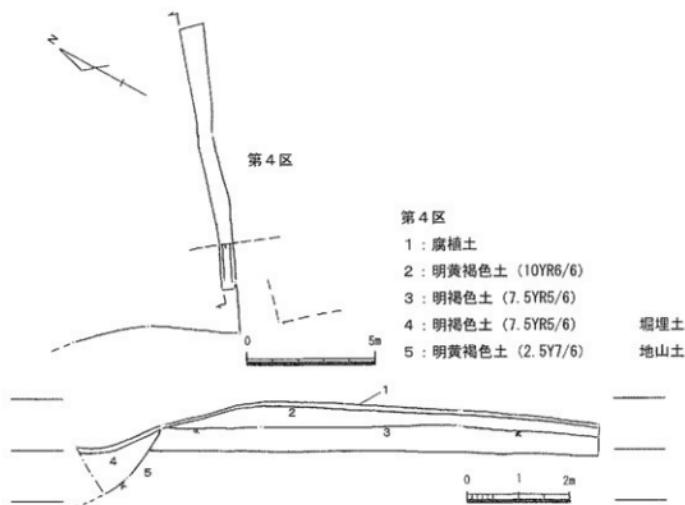


図9 2014-13区

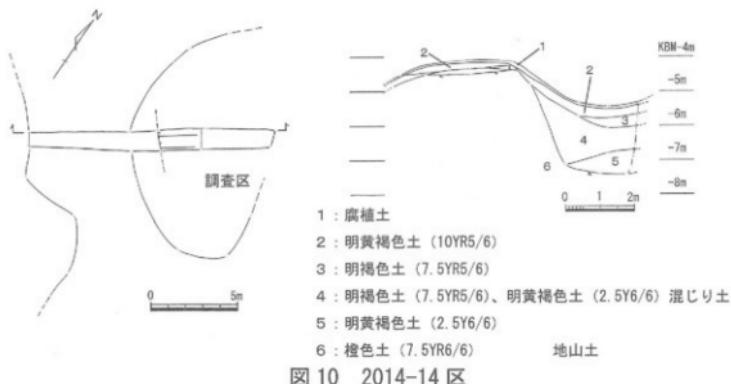


図 10 2014-14 区

#### 2015-06 区、2015-10 区の調査（千石堀城跡）

今回の調査は、これまで網張り図で示された千石堀城跡部分の調査から埋蔵文化財包蔵地全体を調査対象域とした。調査は、網張り図で示された千石堀城跡部分の北西部の丘陵上で、昭和期には、国立大阪療養所が設置され、後に建物が取り壊され、大阪市のピクニックセンターとして使用されてきた経緯がある地点である。



図 11 2015-06 区、2015-10 区調査区配置図

## 2015-06 区の調査（千石堀城跡）

調査期間 平成 27 年 7 月 14 日～7 月 24 日

調査面積 29.0 m<sup>2</sup>

調査は、平成 27 年 7 月 14 日～24 日にかけて第 1 区～第 4 区（合計 29 m<sup>2</sup>）を設定して実施した。以下、概要を示す。

### 第 1 区

本調査区は丘陵部西側に設定した。地層堆積状況は、上層より暗灰黄色土（1、層厚 0.3 m）、浅黄色砂（2、層厚 0.2 m）でその下は、明黄褐色土（3）の地山である。

丘陵部全城が平坦に造成されており、調査区北側では、コンクリート基礎の一部を検出した。第 1 層は表層土・盛土、第 2 層は基礎埋戻し土・盛土と考えられる。遺構は検出できなかった。遺物は出土していない。

### 第 2 区

本調査区は、丘陵部東側段差部分に設定した。地層堆積状況は、上層より腐植土層（1、層厚 0.1 m）でその下は、明黄褐色土（2）の地山である。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

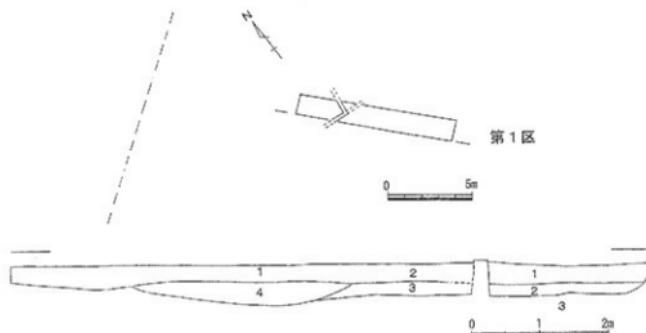
### 第 3 区

本調査区は、丘陵部北側の平坦部から斜面の地形変化点に設定した。地層堆積状況は、上層より腐植土層（1、層厚 0.1 ～ 0.2 m）でその下は、明黄褐色土（4）の地山である。平坦面の造成を行ったようで、旧腐植土層（3、層厚 0.1 m）の上に盛土（2、層厚 0.6 m）を確認した。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

### 第 4 区

本調査区は、丘陵部北側の平坦部から斜面の地形変化点に設定した。地層堆積状況は、上層より腐植土層（1、層厚 0.1 m）でその下は、造成盛土（2 ～ 7、9）、黄褐色土（8）の地山である。地層の状況から、平坦面の造成のため斜面部分を数度にわたって盛土で埋めていることが明らかとなった。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

調査の結果、本丘陵部は、昭和期に平坦面が造成され、北側斜面についても盛土を行っている状況が明らかとなった。また、地形変化地点の調査により堀等の城にかかる縄張りが展開しないことが明らかとなった。



### 第 1 区

- 1 : 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)  
2 : 浅黄色砂 (2.5Y7/4)

- 3 : 明黄褐色土 (10YR6/8) 地山土  
4 : 捣乱層 暗オーリーブ褐色土 (2.5YR3/3)

図 12 2015-06 区

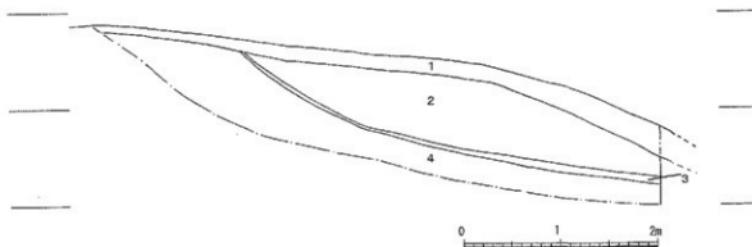
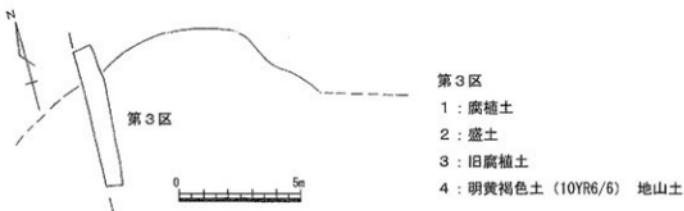
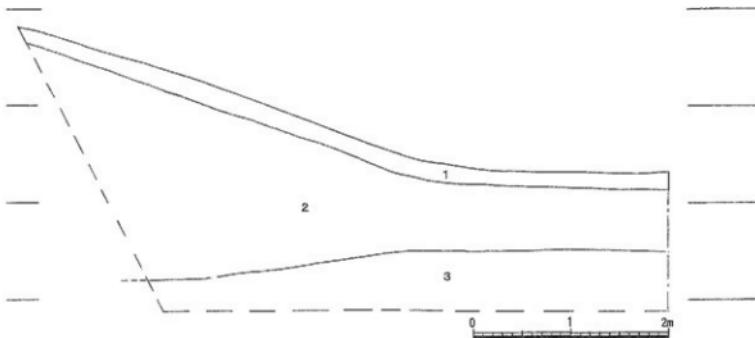
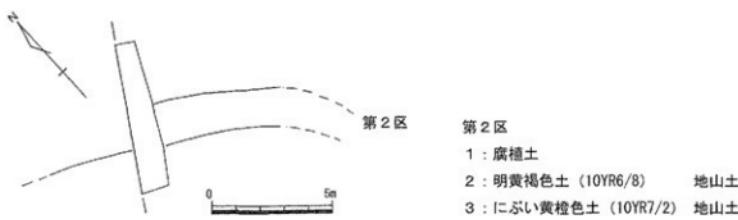


図 13 2015-06 区

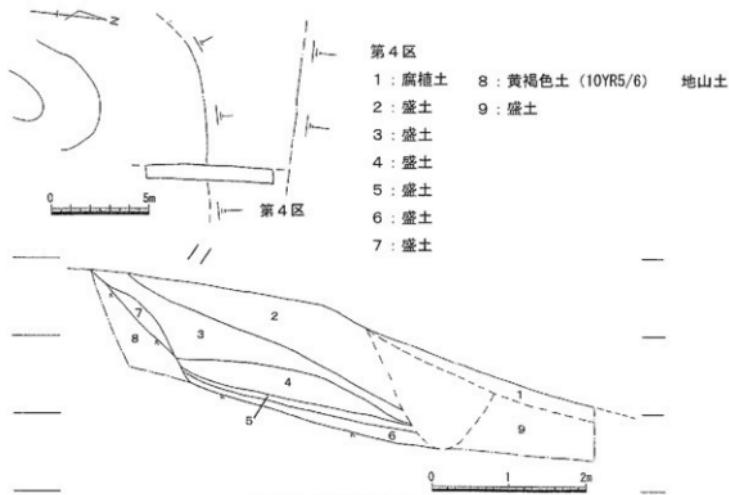


図 14 2015-06 区

#### 2015-06 区の調査（千石堀城跡）

調査期間 平成 27 年 11 月 9 日～11 月 10 日

調査面積 17.8 m<sup>2</sup>

調査は、平成 27 年 11 月 9 日、11 月 10 日にかけて第 1 区～第 2 区（合計 17.8 m<sup>2</sup>）を設定して実施した。以下、概要を示す。

##### 第 1 区

本調査区は丘陵部南西側に設定した。地層堆積状況は、上層より腐植土（1、層厚 0.1 m）、盛土（2、層厚 0.3 m）、盛土（3、層厚 0.5 ～ 0.65 m）でその下は明褐色土の地山である。遺構は検出できなかった。遺物は出土していない。

##### 第 2 区

本調査区は、丘陵部南東側に設定した。地層堆積状況は、上層より腐植土層（1、層厚 0.2 m）、盛土（2、層厚 0.4 m）でその下は、浅黄色粘土（3）の地山である。調査区北側は、コンクリート基礎を確認した。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

調査の結果、本丘陵部は、昭和期に平坦面が造成され、南側についても北側同様に平坦に造成されているが、5 m 以上の高低差があり急斜面には石垣を設けている。腐植土下には、建物の基礎が多数残っているようであり、今回の調査により丘陵部南側についても堀等の城にかかるる縄張りが展開しないことが明らかとなった。

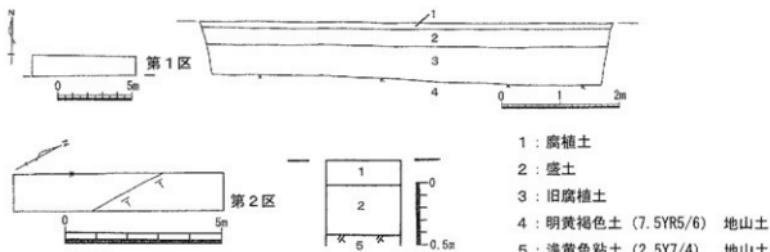


図 15 2015-10 区

## 5. 加治・神前・畠中遺跡

### 2015-05 区の調査（加治・神前・畠中遺跡）

調査期間 平成 27 年 6 月 29 日

調査面積 7.2 m<sup>2</sup>

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高 11 ~ 20 m に位置する。本遺跡は、これまでの調査で弥生時代の井戸跡、古墳時代前期の掘立柱建物跡、古墳時代後期の堅穴住居跡、古代の掘立柱建物跡、堅穴住居跡、井戸跡、礫跡等を検出しており、古代においては集落跡もしくは公的施設が存在した可能性がある。平成 12 (2000) 年度の調査において平安時代の瓦窯跡を 10 基検出しており、生産施設の存在が明らかとなっている。

今回の調査は、開発用地内に調査区 (7.2 m<sup>2</sup>) を設定して実施した。地層堆積状況は、上層より耕作土 (1、層厚 0.18 m)、にぶい黄褐色土 (2、層厚 0.3 m)、暗灰黄色土 (3、層厚 0.1 m) でその下は、黄褐色土 (4) の地山である。

地層堆積状況から判断して、第 2・第 3 層は農地層と考えられる。遺構は検出できなかった。遺物は出土していない。調査の結果、農地層を確認したが、遺物包含層、遺構は確認できなかった。

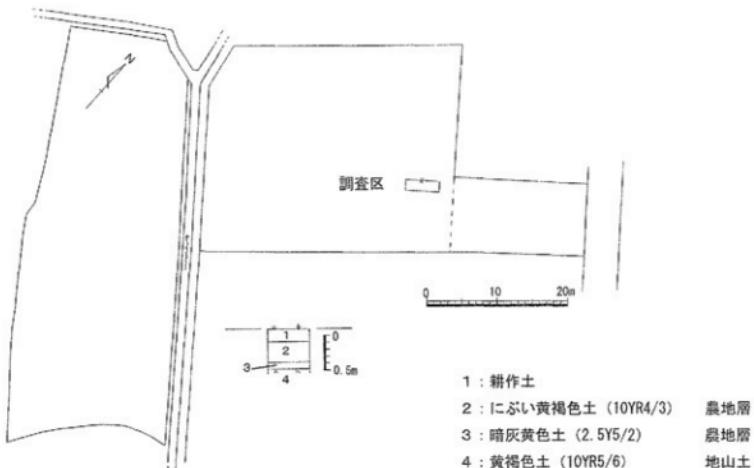


図 16 2015-05 区

## 6. 脇浜遺跡

### 2015-08 区の調査（脇浜遺跡）

調査期間 平成 27 年 8 月 5 日

調査面積 4.2 m<sup>2</sup>

本遺跡は、標高 2 ~ 3 m の近木川右岸に位置する縄文時代から近世にかけての散布地、生産遺跡である。本遺跡からは削糞等の多数の漁撈具が出土しており、漁業に携わる集落跡と推定している。また、製塙土器が出土することから、海岸線辺部という立地条件を活かして、製塙を行っていたと考えられる。（財）大阪府文化財センターによる昭和 61 年度（1986 年）の調査では、出土遺物により少なくとも縄文時代晚期までさかのぼることが確認されている。さらに古墳時代の掘立柱建物跡や中世のピットを検出している。平成 2 年度（1991 年）の調査では、古墳時代後期の堅穴住居跡が 2 棟検出されている。

今回の調査は、開発道路部分に調査区 (4.2 m<sup>2</sup>) を設定して実施した。地層堆積状況は、上層より舗装面 (1、層厚 0.1 m)、盛土 (2、層厚 0.75 m)、盛土 (3、層厚 0.25 m)、擾乱・盛土 (4、層厚 0.3 m 以上) である。現状地盤より 1.4 m 掘削したが、地山は確認できなかった。地層は搅乱され、盛土が何層もされている状況を確認した。

調査の結果、現在海岸部は埋め立てられて道路等になっている。周辺部には煉瓦工場等が存在したことから、軟弱な海岸砂部分を造成したのではないかと考えられる。

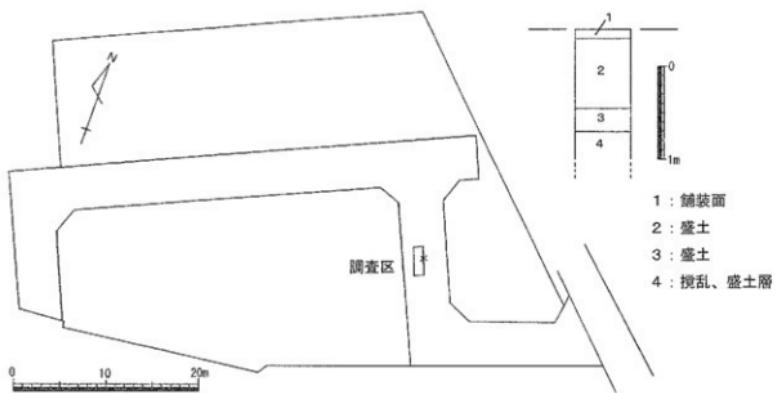


図 17 2015-08 区

## 7. 麻生中遺跡

### 2015-09 区の調査（麻生中遺跡）

調査期間 平成 27 年 10 月 5 日

調査面積 5.6 m<sup>2</sup>

本遺跡は、標高 28 m の段丘上に位置する。弥生時代から古墳時代、中世の散布地、集落跡である。これまでに、調査において、遺物の出土、遺構を検出した例はない。周辺部には、古墳時代・奈良・平安時代の集落跡である麻生中下代遺跡、奈良・平安時代の寺院跡である東寺などが位置する。

今回の調査は、開発道路部分に調査区 (5.6 m<sup>2</sup>) を設定して実施した。地層堆積状況は、上層より盛土 (1、層厚 0.5 ~ 0.55 m)、耕作土 (2、層厚 0.05 ~ 0.1 m)、にぶい黄褐色土 (3、層厚 0.1 m)、黄褐色礫混じり土 (4、層厚 0.15 m 以上) である。4 層は流路堆積層と考えられる。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

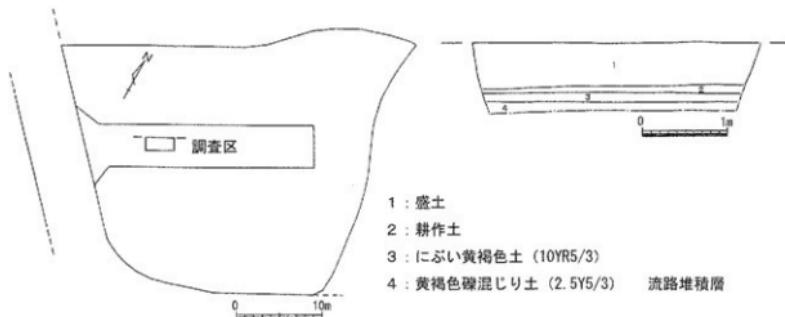


図 18 2015-09 区

## 8. 貝塚寺内町遺跡

### 2015-09 区の調査（麻生中遺跡）

調査期間 平成 27 年 10 月 5 日

調査面積 5.6 m<sup>2</sup>

本遺跡は、本市北西部の海岸部に位置し、標高は 2 ~ 11 m、願泉寺を中心として中世末期に成立した寺内町であり、周囲に濠や土壘をめぐらされた城郭寺院跡である。願泉寺は天正年間には一時、本願寺が置かれるなど真宗寺院のなかでも特別な存在であった。本遺跡の調査では、濠、土堀の他、溝、土坑、井戸、埋甕、水琴窟等を近世後半の遺構を多数検出している。

今回の調査は、開発道路部分に調査区 (6 m<sup>2</sup>) を設定して実施した。地層堆積状況は、上層より搅乱・盛土 (1、層厚 0.25 m)、表層土 (2、層厚 0.35 m)、灰黄褐色砂混じり土 (層厚 0.35 m)、褐色砂 (4、層厚 0.15 m)、黒褐色土 (5、層厚 0.1 m)、黄褐色砂 (6) である。地山は確認できなかった。第 3 層は土間層と考えられる。第 5 層は、炭灰、焼土を含む火災層と考えられる。本調査地の近接地において、近世の火災層とみられる層を確認しており、火災層が広範囲に及ぶと考えられる。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

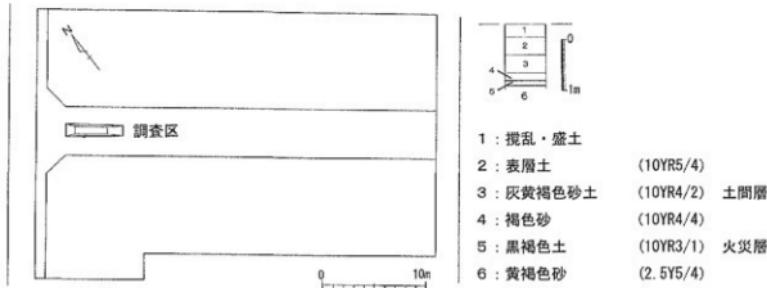


図 19 2015-11 区

### 9. 遺跡範囲外

#### 2015-04 区の調査

本試掘調査は、名越 601 において実施した。調査は、建物建設部分に調査区 (5 m<sup>2</sup>) を設定して実施した。本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土 (1、層厚 0.2 m)、にぶい黄褐色土 (2、層厚 0.15 m) でその下は、にぶい黄褐色土 (3) の地山である。地山上面で遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

#### 2015-07 区の調査

本試掘調査は、堤 29-1、33-1 において実施した。調査は、開発道路部分に調査区 (9.5 m<sup>2</sup>) を設定して実施した。本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土 (1、層厚 0.2 m)、黄褐色土 (2、層厚 0.05 ~ 0.15 m) でその下は、黄褐色土疊混じり土 (6) の地山である。

第 3 層から第 5 層は地層断面で確認した溝である。幅 2 m 以上、深さ 0.3 m で遺物は出土おらず“自然のもの”と考えられる。各地層から遺物は出土しておらず、遺物包含層は確認していない。

#### 2015-12 区の調査

本試掘調査は、沢 470-20、489 において実施した。調査は、開発敷地内に調査区 (5.9 m<sup>2</sup>) を設定して実施した。本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土 (1、層厚 0.15 m)、にぶい黄褐色土 (2、層厚 0.15 m)、暗褐色疊混じり土 (3、層厚 0.1 m) で、その下は褐色疊混じり土 (4) である。遺構は確認できなかった、遺物は出土していない。

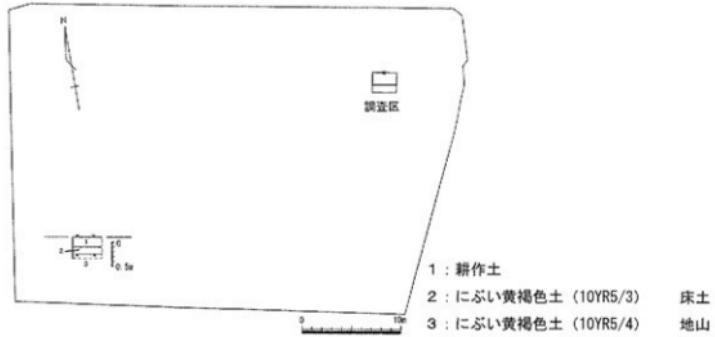


図 20 2015-04 区

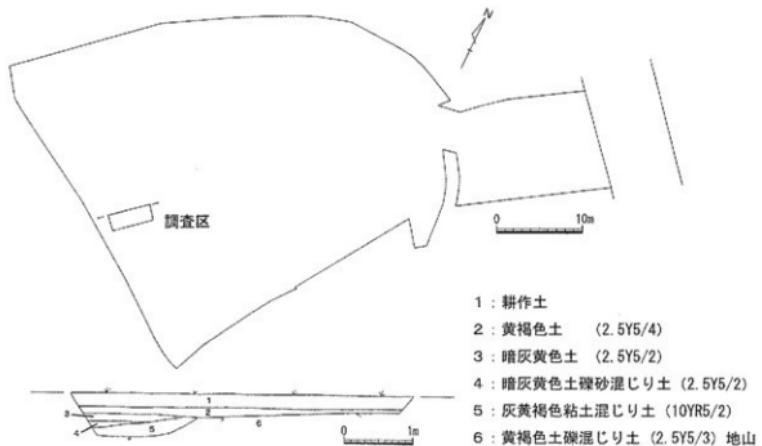


図 21 2015-07 区

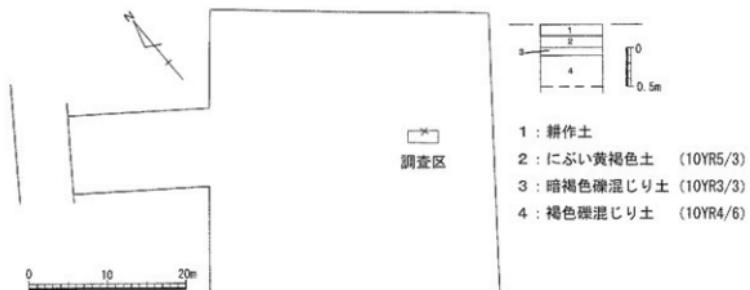


図 22 2015-12 区

報告書抄録							
ふりがな	かいづかしいせきぐんはつくつちょうさがいよう						
書名	貝塚市遺跡群発掘調査概要						
副書名							
巻次	38						
シリーズ名	貝塚市埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	第 84 集						
編著者名	三浦基						
編集機関	貝塚市教育委員会						
所在地	〒 597-8585 大阪府貝塚市畠中 1-17- 1 Tel 072-423-2151						
発行年月日	西暦 2016 年 3 月 31 日						

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
海塚遺跡	大阪府貝塚市 臨浜	27208	110	34 度 26 分 29 秒	135 度 21 分 33 秒	20150127	7	宅地造成
沢城跡	大阪府貝塚市 浦田	27208	28	34 度 26 分 44 秒	135 度 20 分 44 秒	20150204	4.2	共同住宅
森下代遺跡	大阪府貝塚市 森	27208	83	34 度 24 分 59 秒	135 度 23 分 01 秒	20140616	8	宅地造成
千石堀城跡	大阪府貝塚市 名越	27208	44	34 度 25 分 01 秒	135 度 22 分 08 秒	20150223 ~ 20150227	43.4	発掘調査
千石堀城跡	大阪府貝塚市 名越	27208	44	34 度 25 分 01 秒	135 度 22 分 06 秒	20150305 ~ 20150306	14.9	発掘調査
遺跡範囲外	大阪府貝塚市 名越	27208	-	34 度 25 分 04 秒	135 度 22 分 38 秒	20150619	5	共同住宅
加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 加神	27208	23	34 度 26 分 25 秒	135 度 21 分 20 秒	20150629	7.2	事務所
千石堀城跡	大阪府貝塚市 名越	27208	44	34 度 25 分 08 秒	135 度 21 分 57 秒	20150714 ~ 20150724	29	発掘調査
遺跡範囲外	大阪府貝塚市 堤	27208	-	34 度 25 分 39 秒	135 度 21 分 30 秒	20150727	9.5	宅地造成
臨浜遺跡	大阪府貝塚市 臨浜	27208	66	34 度 26 分 37 秒	135 度 20 分 47 秒	20150805	4.2	宅地造成
麻生中遺跡	大阪府貝塚市 麻生中	27208	32	34 度 26 分 02 秒	135 度 22 分 25 秒	20151005	5.6	宅地造成
千石堀城跡	大阪府貝塚市 名越	27208	44	34 度 25 分 03 秒	135 度 21 分 56 秒	20151109 ~ 20151110	17.8	発掘調査
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 北町	27208	22	34 度 27 分 01 秒	135 度 21 分 24 秒	20151127	6	宅地造成
遺跡範囲外	大阪府貝塚市 沢	27208	-	34 度 26 分 00 秒	135 度 20 分 19 秒	20151214	5.9	共同住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
海塚遺跡	集落跡	中世	—	—	
沢城跡	城跡、集落跡	中世	—	—	
森下代遺跡	集落跡	中世	—	—	
千石堀城跡	城跡	中世	—	—	
千石堀城跡	城跡	中世	—	—	
遺跡範囲外	—	—	—	—	
加治・神前・島中遺跡	集落跡	弥生～室町	—	—	
千石堀城跡	寺院跡	中世	—	—	
遺跡範囲外	—	—	—	—	
駿浜遺跡	生産遺跡・散布地	縄文～江戸	—	—	
麻生中遺跡	散布地・集落跡	弥生～古墳、中世	—	—	
千石堀城跡	城跡	中世	—	—	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	中世、近世	—	—	
遺跡範囲外	—	—	—	—	

# 図 版

図版  
1



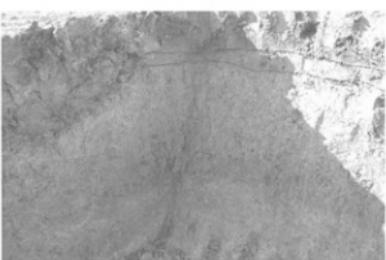
海塚遺跡（2014 - 10 区） 第1区



海塚遺跡（2014 - 10 区） 第2区



沢城跡（2014 - 11 区）



森下代遺跡（2014 - 12 区）

図版  
3



千石堀城跡（2014 - 13 区） 第 1 区



千石堀城跡（2014 - 13 区） 第 2 区



千石堀城跡（2014 - 13区）第3区



千石堀城跡（2014 - 13区）第4区

図版  
5



千石堀城跡（2014 - 14 区）



千石堀城跡（2015 - 06 区） 第 1 区



千石堀城跡（2015 - 06 区） 第 2 区



千石堀城跡（2015 - 06 区） 第 3 区

図版  
7



千石堀城跡（2015 - 06 区） 第4区



千石堀城跡（2015 - 10 区） 第1区

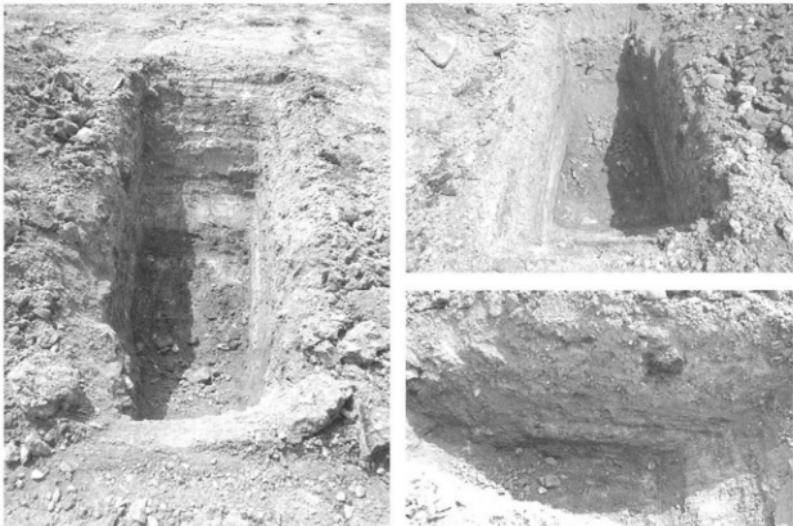


千石堀城跡（2015 - 10 区） 第2区



加治・神前・畠中遺跡（2015-05 区）

図版 9



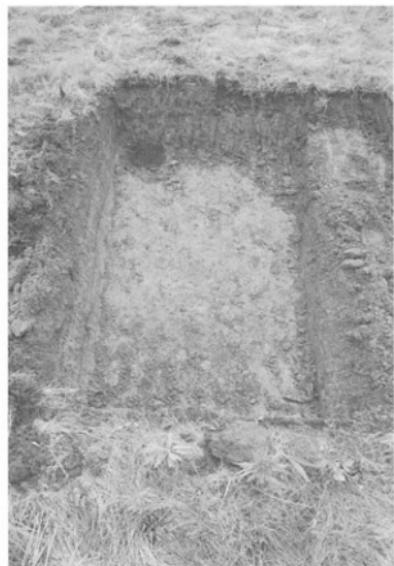
脇浜遺跡（2015 - 08 区）



麻生中遺跡（2015 - 09 区）



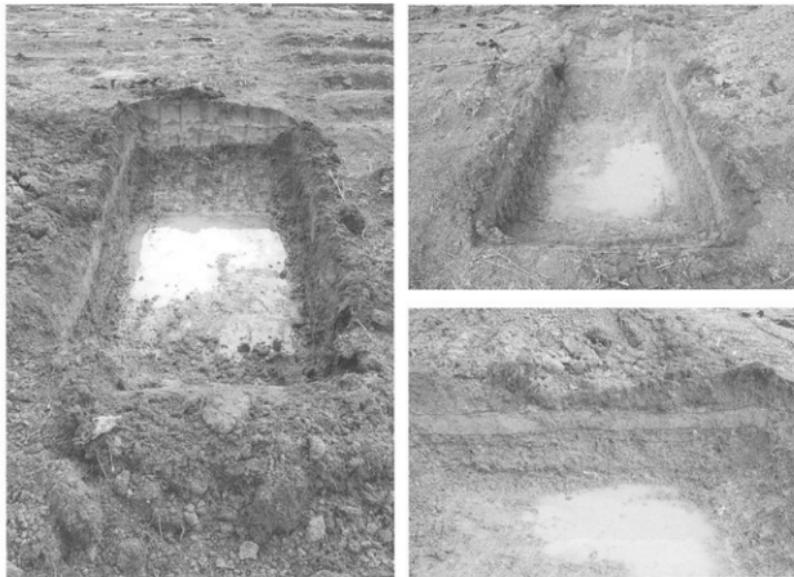
貝塚寺内町遺跡（2015 - 11 区）



遺跡範囲外（2015 - 04 区）



遺跡範囲外 (2015 - 07 区)



遺跡範囲外 (2015 - 12 区)

貝塚市埋蔵文化財発掘調査報告 第84集  
貝塚市遺跡群発掘調査概要 38

発行日 平成 28年（2016）3月31日

編集・発行 貝塚市教育委員会

大阪府貝塚市畠中1丁目17番1号

印 刷 摂河泉文庫